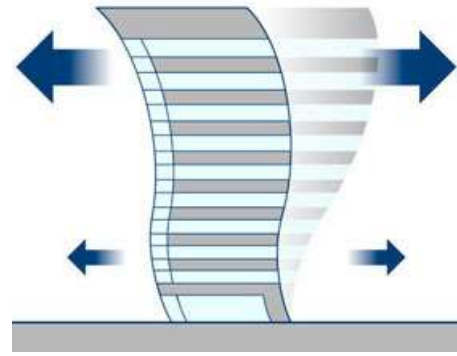


いざという時のために！

共同住宅居住者向け 地震防災対策（概要版）



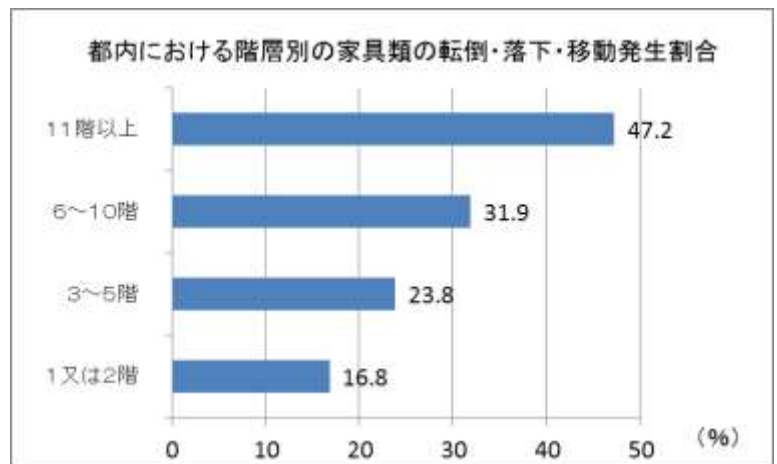
1. 共同住宅の特徴

美浜区では、約9割の方が共同住宅に居住しています。地震発生時、共同住宅で考えられる特徴は以下のとおりです。これらの特徴を踏まえた事前の備えや対策が必要です。

○揺れの増幅

高層階は揺れの程度が低層階より長く大きくなりやすい傾向があります。そのため、家具の転倒や散乱による被害やけがに遭う可能性は高くなります。

また、揺れの程度が長く大きくなることで、地震による建物の損傷の他、窓ガラスが割れ怪我をする、玄関や窓のドアが歪み開かなくなるといった被害が考えられます。



出典：東日本大震災に伴う地震発生時のアンケート調査結果（東京消防庁）

○ライフラインの供給停止による日常生活への影響

建物に被害がなくても、配線・配管が損傷し、電気・水道といったライフラインの供給がストップしてしまう可能性があります。

特にエレベーターの停止により、高層階に居住している住民や高齢者は飲食料や物資の運搬で負担が大きくなります。

2. 自宅での居住継続（在宅避難）

震災後は、家屋の焼失や倒壊で住居を失った方等が、避難所での生活を余儀なくされます。このため、避難所は人で溢れかえり、プライバシーの確保が極めて困難で、ストレスや過労から体調を崩してしまうこともあります。

耐震性の高い共同住宅の場合は、避難所への避難の必要性が低いと考えられます。

可能な限り住み慣れた自宅での生活の確保を目標としましょう。

3. 家具の転倒防止

過去の震災において、けがをした方の多くは家具の転倒などによるものでした。災害発生時、倒れてくる家具を避けることは困難で、家具の転倒や散乱により生活空間の確保が難しくなることも考えられます。家具の固定や配置の見直しを行いましょう。



家具の転倒防止

4. 食料、物資の備蓄

地震は、いつ発生するかわかりません。いざという時のために、日頃から備えをしておきましょう。高層階に居住されている方は、エレベーター停止に備え、食料等を少し多めに準備しておきましょう。

食料、物資の備蓄（飲食物は最低3日分、できれば1週間分を）

5. 簡易トイレの準備

水道が止まると、トイレの水は流せず使用できなくなります。また、排水管に破損があると、下の部屋に汚水漏れや逆流が発生することがあります。排水管の点検が終わるまでは水は流さず、トイレは、簡易トイレや携帯トイレを使用しましょう。

簡易トイレや携帯トイレの準備

6. エレベーター

- 地震時の安全装置がついているか事前に確認。（揺れを感知すると自動的に最寄階で停止）
- 全ての階のボタンを押し、停まった階で速やかに降りる。
- 閉じ込められてしまったら、「非常電話」ボタンを押し、救助を待つ。
- 避難する場合でも、エレベーターは利用しない。



7. 避難経路の確保

- 揺れが大きいと感じたら、ドアや窓を開け、避難口を確保する。
- 開かなくなった扉をこじ開けるためにバールなどを用意する。
- 避難はしご等の設置場所、使い方を把握しておく。
- 避難路にオートロックの出入り口がある場合、停電時の解除方法を確認しておく。
- 自宅のドアなどに避難したことがわかる貼り紙をする。

